



Contents

- ・【巻頭エッセー】
『明日に向かって』…図書館長 古川聡 ●表紙
- ・【Parlando Interview】“ジョイ”を共有する音楽
小曾根真先生 きき手・菅野里奈 ●2～5
- ・【300号記念特集】
先生のエッセー…足本憲治 江澤聖子
沼口隆 福井敬 ●6～7
学生のエッセー…伊藤太郎 北沢彩乃
土屋憲靖 三宅彩葉 ●8～9
- 今までの表紙から
～『ばるらんど』のあゆみ～ ●10～11
- ・Information ●12

Parlando

ばるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です



【巻頭エッセー】『明日に向かって』

図書館長 古川聡

国立音楽大学附属図書館の広報誌であるこの『ばるらんど』の歴史を紐解いてみると、1976年11月15日に第1号が、1982年11月には第100号が刊行されたことがわかる。そして今回、記念すべき第300号を出すことができた。ひと言で300号と言うものの、他大学の図書館の広報誌を調べてもここまで号を重ねてきたものは少ない。40年以上の月日かけた図書館員の努力、そして学生と教職員の皆さん、さらには大学の支援の賜物と言えるだろう。ここに深く感謝する次第である。

新しいものをつくるには、非常に大きなエネルギーが必要になる。この『ばるらんど』も同じだったであろう。従来の刊行物には不足していたものを補う存在であり、しかも新しい視点に立つものでなければ喜んで受け入れてはもらえない。そこで先人たちは、この『ばるらんど』を創刊するに当たってさまざまなことを考え、期待を込めたに違いない。各巻の目次を眺めていくと、その主たる思いは利用者と図書館との結びつきを強めることであつたと察せられる。それまでの図書館からの一方的な情報発信に留まるのではなく、学生や教職員など多様な利用者の声を取り入れながら、共に図書館をつくっていくとする姿勢が感じられる。今風に言えば、利用者と図書館がコラボすることを目指したといえるだろう。実際、“parlando”という言葉は、「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号であり、この冊子を通して図書館が利用者の方々にさまざまな語りかけをし、利用者も図書館に語りかけてほしいという思いがあつたのではなかろうか。

この『ばるらんど』が創刊された頃、私は大学で心理学を学び始めた。実験や観察、調査などの研究方法を身につけ、データを取りながら論文を書き、今こうして大学で心理学の授業を担当している。授業で先生から教えられたことを理解し、疑問が生まれると質問し、それに先生は丁寧に答えてくれた。学生の頃からの学びが今の私を作っている。ひとつひとつは些細なものであつても、先生との対話の中で積み重ねられたものは大きい。

大学の、さらには附属図書館を巡る環境はこの数年で大きく変化した。正しく言えば今も変化し続けており、過去形ではなくまさに現在進行形である。そのため私たち図書館に関わる者も、日々の変化に対応できるよう意識も変えていかなければならない。懸案であつた耐震化とともにリニューアルを果たし、図書館を運営するための骨格と言えるシステムも入れ替え、ハード面ではこれからの時代に対応できるだけの体制を整えた。残された課題は、そのようなハードをどのように運用していくかと言うソフト面である。この『ばるらんど』第300号の刊行を機に、図書館員一同気持ちを新たに次の時代に向けて努力していく所存である。これまで同様にご支援を賜りながら、大学を牽引する存在になるようますます発展していきたいと心から願っている。

●ふるかわ さとし 本学副学長・教授
(幼児教育学・教育心理)